(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-209301
(P2017-209301A)
(43)公開日　平成29年11月30日(2017.11.30)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A44C 7/00	(2006.01)	A44C	7/00	A	3B114

審査請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 6 頁）

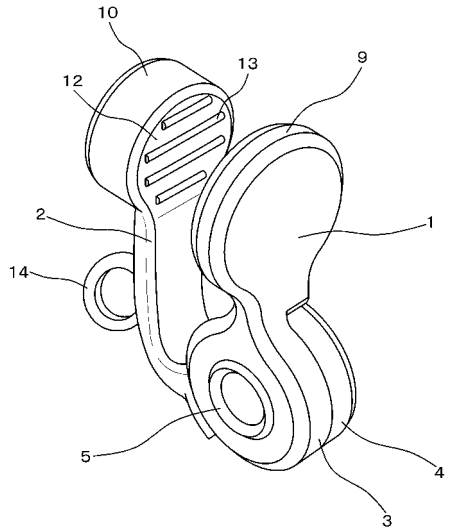
(21)出願番号　特願2016-104615 (P2016-104615)
(22)出願日　平成28年5月25日 (2016.5.25)

(71)出願人　398057019
株式会社ワンダーワークス
東京都北区滝野川５ー５－５
(71)出願人　301004547
株式会社アミューズ
東京都台東区浅草橋４－１９－８
(74)代理人　100076071
弁理士　松浦　恵治
(72)発明者　植本　晋輔
東京都北区滝野川５－５－５　株式会社ワンダーワークス内

Ｆターム(参考)　3B114 AA11　EA04

(54)【発明の名称】樹脂製イヤリング

(57)【要約】
【課題】
本発明は樹脂製イヤリングに係り、さらに詳しくは着脱が容易であって、さらに、耳たぶの厚さ寸法が異なっても常に適度な挟持力を確保して耳たぶに止めることができる樹脂製イヤリングを提供することである。
【解決手段】
一対の樹脂製のイヤリング部材で構成され、両イヤリング部材の一端同士をハトメ部材で回動自在に軸着し、ハトメ部材の外周方向側であって、一対のイヤリング部材の対向摺接面の位置に、両イヤリング部材の回動抵抗を確保するためのＯリングを介装させ、前記イヤリング部材における前記ハトメ部材を設けた位置の反対側の端部付近に耳たぶを挟持する対向挟持面を形成し、前記イヤリング部材の一方又は双方に装飾体取り付け部を備えたことを特徴とする樹脂製イヤリングである。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
一対の樹脂製のイヤリング部材で構成され、両イヤリング部材の一端同士をハトメ部材で回動自在に軸着し、ハトメ部材の外周方向側であって、一対のイヤリング部材の対向摺接面の位置に、両イヤリング部材の回動抵抗を確保するためのＯリングを介装させ、前記イヤリング部材における前記ハトメ部材を設けた位置の反対側の端部付近に耳たぶを挟持する対向挟持面を形成し、前記イヤリング部材の一方又は双方に装飾体取り付け部を備えたことを特徴とする樹脂製イヤリング。
【請求項２】
前記対向挟持面に滑り止め凸部を形成したことを特徴とする請求項１記載の樹脂製イヤリング。
【請求項３】
前記対向挟持面の一方を凹面状に形成し、前記対向挟持面の他方を凸面状に形成したことを特徴とする請求項１又は２記載の樹脂製イヤリング。
【請求項４】
前記Ｏリングが、フッ素ゴム製Ｏリングであることを特徴とする請求項１乃至３のいずれかに記載の樹脂製イヤリング。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は樹脂製イヤリングに係り、さらに詳しくは着脱が容易であって、さらに、耳たぶの厚さ寸法が異なっても常に適度な挟持力を確保して耳たぶに止めることができる樹脂製イヤリングに関する。
【背景技術】
【０００２】
装身具として耳たぶを飾るものには、ピアスとイヤリングが知られている。
ピアスは耳たぶにピアスホールを貫通させ、そのピアスホールにピアスの係止ピンを挿通させることにより取付けられるものである。このピアスホールは、いずれにしてもピアッサーにより耳たぶの一部に傷をつけることになるため、一部の人々にとっては精神的に受け入れがたいものであったり、さらには衛生面・安全面においても注意を要するものであった。
【０００３】
一方、耳たぶにピアスホールを形成することなく耳たぶに取り付けて使用できる装身具としては、イヤリングが知られている。
このイヤリングの耳たぶへの取り付け方法としては、イヤリングにセットしたスクリューを回転させる方法がある。
【０００４】
スクリューを回転させるためには、そのスクリューの小さなつまみ部をつまんで何回も回転させなければならず、イヤリングの着脱に手間がかかるという問題があった。
これに対し、一対のばね部材の耳たぶを挟む方向の弾性力を利用したイヤリングも提供されている。
このばね部材の弾性力を利用するイヤリングは、一対のばね部材を広げて耳たぶを挟み、ばね部材の復帰弾性力で耳たぶを挟むものでスクリュー方式のような手間はかからなかった。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】
【特許文献１】特開２０００－２５３９１４号公報
【特許文献２】特開２００３－５２４２３号公報

【特許文献３】特許２０１０－１７２４１７号公報
【特許文献４】特許２０１２－３４８３３号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
本発明の樹脂製イヤリングは、一対の樹脂製のイヤリング部材をハトメ部材で加締め結合させ、ばね部材を使用することなく、一対のイヤリング部材間の間隔を程よい挟持力で長時間安定保持できるようにし、耳たぶの厚さ寸法の異なる人々の誰に対しても、簡単でありながら、確実で適切な挟持力を確保できるようにしたものである。
このハトメ部材の近くにはＯリングを介装させている。
【０００７】
従来の金属製素材、主として真鍮製のもので構成されるハトメ部材は、金属製素材を加締めることで上記の挟持力を確保していたが、単純に加締めのみの構成で挟持力を確保するものであるため、職人の技能により、常に一定の挟持力を確保することは難しく、またその挟持力も長時間安定したものではなく、ある程度の使用時間を経過すると、樹脂製イヤリングのがたつきやゆるみが発生し、安定した挟持力を確保できなくなるという問題があった。
【０００８】
このため、特許文献４に示すように、ハトメ部材を使用せず、ばね部材を使用し、さらにそのばね部材には、ばね部材の弾性力が作用する凸部を別途備えるなどの工夫をする必要があり、イヤリングの構成が複雑になるという別の問題も起きていた。
【０００９】
本件発明は、部品点数が少なく、各部品の構造もシンプルであるため、生産効率が向上し、使用感に優れる樹脂製イヤリングを提供することにより、上述した全ての問題点を解消しようとするものである。
【課題を解決するための手段】
【００１０】
上記目的を達成するために、請求項１記載の発明は、一対の樹脂製のイヤリング部材で構成され、両イヤリング部材の一端同士をハトメ部材で回動自在に軸着し、ハトメ部材の外周方向側であって、一対のイヤリング部材の対向摺接面の位置に、両イヤリング部材の回動抵抗を確保するためのＯリングを介装させ、前記イヤリング部材における前記ハトメ部材を設けた位置の反対側の端部付近に耳たぶを挟持する対向挟持面を形成し、前記イヤリング部材の一方又は双方に装飾体取り付け部を備えたことを特徴とする樹脂製イヤリングである。
【００１１】
請求項２は、前記対向挟持面に滑り止め凸部を形成したことを特徴とする請求項１記載の樹脂製イヤリングである。
【００１２】
請求項３は、前記対向挟持面の一方を凹面状に形成し、前記対向挟持面の他方を凸面状に形成したことを特徴とする請求項１又は２記載の樹脂製イヤリングである。
【００１３】
請求項４は、前記Ｏリングが、フッ素ゴム製Ｏリングであることを特徴とする請求項１乃至３のいずれかに記載の樹脂製イヤリングである。
【発明の効果】
【００１４】
上記した請求項１に係るイヤリングは、部品点数が少なく、各部品の構成もシンプルであるため、製品組み立ての作業を効率的に行え、また完成した樹脂製イヤリングは、両イヤリング部材のハトメ部材を中心にして回動させるだけで、樹脂製イヤリングの耳たぶへの係止、あるいは取り外しが簡単に行えるようになり、一旦耳たぶに係止した樹脂製イヤリングは、セットした際の挟持力をそのまま長時間確実に保持することができるため使用感

に優れるという効果と、肌に触れる部分が樹脂製素材で形成されているため、金属アレルギーの人々にも安心して使用できるという効果を達成することができる。

【００１５】

また請求項２に係る樹脂製イヤリングは、対向挟持面に滑り止め部を形成したため、耳たぶへの樹脂製イヤリングの挟持力が一層安定するという効果を発揮する。

【００１６】

つぎに請求項３に係る樹脂製イヤリングは、対向挟持面が収まりの良い曲面に形成されているため、耳たぶへの樹脂製イヤリングの挟持力が更に長時間安定するという効果を発揮する。

【００１７】

さらに請求項４に係る樹脂製イヤリングは、Ｏリングをフッ素ゴム製Ｏリングとしたため、Ｏリング部付近の滑りやすさが格段に向上し、樹脂製イヤリングの安定した締め付け力の確保が得られやすくなり、耳たぶへの挟持力が更に長時間安定するという効果を発揮する。

【図面の簡単な説明】

【００１８】

【図１】本発明に係る樹脂製イヤリングの斜視図である。

【図２】本発明に係る樹脂製イヤリングの、前図とは別の角度の斜視図である。

【図３】本発明に係る樹脂製イヤリングの正面図である。

【図４】前図のＡ－Ａ線断面図である。

【発明を実施するための形態】

【００１９】

以下図面に従って本発明の実施の形態を説明するが、これらは例示的に示されるもので、本発明の技術思想から逸脱しない限り種々の変形が可能なことはいうまでもない。

【００２０】

本発明は、一対の樹脂製のイヤリング部材１，２は、所要の強度を確保したポリカーボネート樹脂（ＰＣ）などの素材で形成され、好ましくは透明素材とすると、別途樹脂製イヤリングに取り付ける装飾体（図示を省略）である宝石、貴金属などが映えて見えるという効果がある。

【００２１】

このイヤリング部材１，２の一端同士３，４をハトメ部材５で回動自在となる状態で軸着し、ハトメ部材５の近辺のイヤリング部材１，２の対向摺接面６，７の位置にはＯリング８を介装させている。

このＯリング８は、イヤリング部材１，２を回動させる際の、回動抵抗を確保するためのものであり、使用するイヤリング部材１，２に合う太さ寸法、直径、硬度などの条件を備えたものが選択して使用される。

【００２２】

このように調整されたイヤリング部材１，２は、ある程度の引っ張り力で耳たぶを挟持する部分を開いたり閉じたりすることが可能となり、一旦耳たぶを挟持してセットした場合には、その状態を安定的に保持することができ、これにより本発明の樹脂製イヤリングの使用性が向上する効果がある。

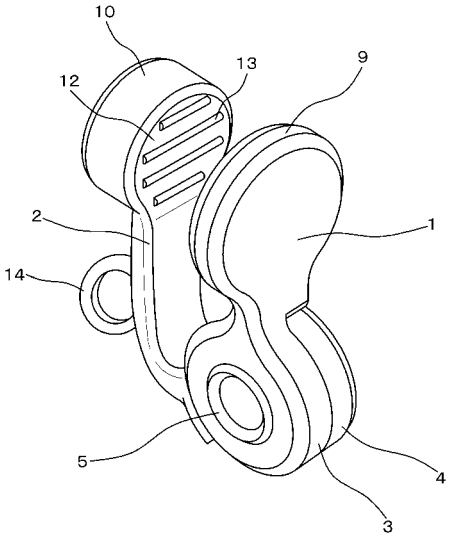
【００２３】

上記目的を達成するために、請求項１記載の発明は、一対の樹脂製のイヤリング部材で構成され、両イヤリング部材の一端同士をハトメ部材で回動自在に軸着し、ハトメ部材の外周方向側であって、一対のイヤリング部材の対向摺接面の位置に、両イヤリング部材の回動抵抗を確保するためのＯリングを介装させ、前記イヤリング部材における前記ハトメ部材を設けた位置の反対側の端部付近に耳たぶを挟持する対向挟持面を形成し、前記イヤリング部材の一方又は双方に装飾体取り付け部を備えたことを特徴とする樹脂製イヤリングである。

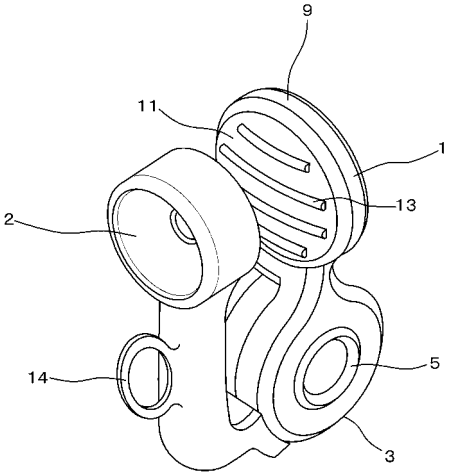
前記イヤリング部材１，２における前記ハトメ部材を設けた位置の反対側の他端９，１

０付近には、耳たぶを挟持することができる対向挟持面１１，１２が形成されている。
【００２４】
この対向挟持面１１，１２には、必要に応じて、滑り止め凸部１３を形成することができ、さらに必要であれば、対向挟持面１１，１２の一方を凹面状に形成し、他方を凸面状に形成することで、対向挟持面１１，１２同士が曲面状態ではまり込むように接触させることができ、対向挟持面１１，１２の間に耳たぶを挟んだ際に、イヤリング部材１，２が耳たぶから離脱しにくくなる効果がある。
【００２５】
なお、図中符号１４は装飾体（図示しない）を係止するために利用される装飾体係止部を示している。
この装飾体係止部１４は、イヤリング部材１，２の一方だけでも、或いは双方に設けるようにしてもよい。
【００２６】
上記の構成に係る本発明の樹脂製イヤリングを使用するには、まずイヤリング部材１，２の他端９，１０を開いて耳たぶの表裏面にあてがい、イヤリング部材１，２の対向挟持面１１，１２で耳たぶを挟持する。
耳たぶを挟持するには、前記対向挟持面１１，１２のそれぞれの背面側を耳たぶを押し込む方向に押圧し、ハトメ部材５とＯリング８の回動抵抗に抗して軽い力でイヤリング部材１，２を押し込むこととなる。
【００２７】
樹脂製イヤリングの耳たぶへの適度の挟持力が確保された状態で、この押し込み力を解除し、樹脂製イヤリングの耳たぶへの係止を完了する。この状態で、ハトメ部材５とＯリング８の回動抵抗は逆の戻り方向への動きに抗する作用を発揮し、樹脂製イヤリングが不用意に緩むことを防止できる。
また樹脂製イヤリングを耳たぶから外すには、上記の手順の反対の操作を行うことで完了する。
【産業上の利用可能性】
【００２８】
本発明は、イヤリングを製造販売、使用するすべての産業において利用される。
【符号の説明】
【００２９】
１，２　イヤリング部材
３，４　イヤリング部材の一端
５　ハトメ部材
６，７　イヤリング部材の対向摺接面
８　Ｏリング
９，１０　イヤリング部材の他端
１１，１２　イヤリング部材の対向挟持面
１３　滑り止め凸部
１４　装飾体係止具

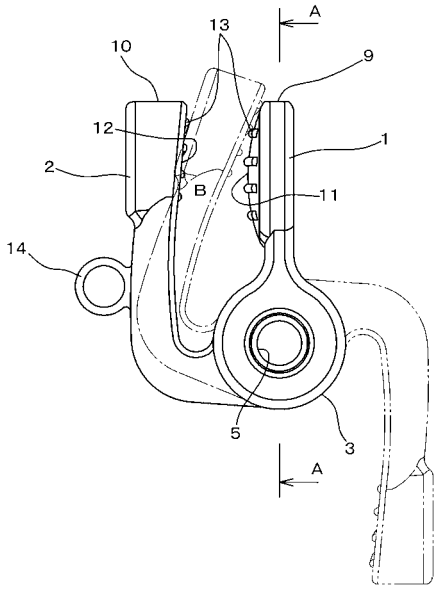
【図１】


10
12
13
9
2
1
14
5
4
3

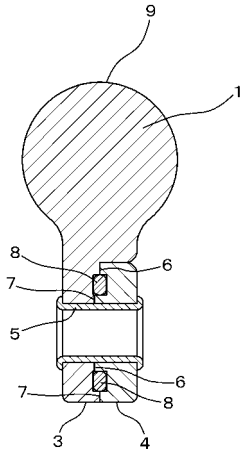
【図２】


9
11
1
13
2
14
5
3

【図３】


A
13
10
9
12
1
2
B
11
14
5
3
A

【図４】


9
1
8
6
7
5
6
7
8
3
4